

○参加報道機関（敬称略）

南信州新聞社、信濃毎日新聞社飯田支社、毎日新聞社飯田通信部、朝日新聞飯田支局、
読売新聞飯田通信部、㈱飯田ケーブルテレビ、飯田エフエム放送㈱

○会見内容（敬称略）

進行【秘書広報課長】

1 開会

2 市長あいさつ

12月定例記者会見にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、I-Port 支援を決定した企業2社を紹介します。はじめに、「LED装置を活用した新製品3種類の開発・販売」としてテクノウェイブサンワ有限会社様です。続いて、「ロボット活用の裾野拡大事業」に取り組まれる三和ロボティクス株式会社様です。両社は、地域の製造業を長きにわたり支えてこられ、共同受注グループのネスクイイダにも参加されています。今回の認定につきましては、これまで実績を積み上げてこられた賜物と理解しているところです。リニア・三遠南信自動車道時代を見据えて、チャレンジ精神によって新たな事業に取り組まれていることに敬意を表させていただきます。

市としましても、両社の新事業の成功に向けて、I-Port 加盟機関と連携しながら応援してまいります。I-Port は、「地域内外の支援機関が一堂に集まり、ワンストップで個別の企業を支援する。」と、全国で珍しく、他の市町村や国の機関からも注目されている取り組みです。いいだ未来デザイン2028の一丁目一番地としている「若い皆さんが帰ってこられる産業づくり」に対応する形で、イノベティブな事業に挑戦する企業が今後も増えていくことを希望しています。

どうぞよろしく申し上げます。

3 発表事項

(1) I-Port支援決定企業の認定【産業経済部】

資料に基づき説明

説明者：テクノウェイブサンワ㈱代表取締役、三和ロボティクス㈱代表取締役社長、
産業経済部長、産業経済部金融政策課長

〈質疑応答〉

南信州新聞社

多関節ロボットについて、より詳細な説明をお願いします。

三和ロボティクス

多関節ロボットは、日本に11社あるロボットメーカーが製作しており、三和ロボティクスが開発している訳ではありません。三和ロボティクスは、多関節ロボットを購入し、センサーや操作パネルといった様々な部品を取り付けて、必要とする事業者のニーズに合うようシステムアップしています。そのなかで、今回開発・販売する「ネクサート」は、飯田下伊那でも多く、全国的には2万事業所ある切削加工に携わる事業者向けの製品であり、生産性の向上や人手不足の解消に向け、昼夜問わず製品をハンドリングできるよう標準化したものです。すでに納入した4社、20台は、全て切削加工に携わる事業者で、我々三和ロボティクスは、切削加工分野のマーケットに絞っており、全国的に2万事業所ありますし、世界への展開も視野に入れながら、市場で日本一を狙って取り組んでいます。

南信州新聞社

今回 I-Port を活用して全国的に展開していくことについて改めて教えてください。

三和ロボティクス

東北地方や九州地方では人手不足が製造業の課題の一つであるなか、すでに我々の製品を望まれるお声掛けをいただいていますので、東日本・西日本に拠点を設けて、切削加工分野で事業展開していきたいと思っています。

4 その他

○飯田市長が進退を見極める時期について

南信州新聞社

飯田市長の進退に関する言及のなかで「大きな変化に対応できるよう市政を軌道に乗せられるか見極めてから」とありましたが、見極めるタイミングはいつ頃としていますか。

飯田市長

様々な課題を軌道に乗せる必要があります。その一例として、リニア本線の南アルプストンネル工区のトンネル掘削に伴う発生土をどこで受け入れるか南信州全域で考えいく必要があります。また、中央アルプストンネル工区の発生土については、とりわけ飯田市が受け入れ先の確保を考えていかなければなりません。そのなかで、現時点では見極めるタイミングは不明な状況です。

○天龍峡大橋開通を生かした施策について

信濃毎日新聞社

天龍峡大橋が開通して1カ月が経とうとしているなか、天龍峡駅周辺の事業承継などの課題に対し、市として、この開通をどのように生かしますか。

飯田市長

経済活性化プログラムのなかで事業承継や人材育成は非常に重要なテーマにしています。まさに、天龍峡においては、新たな玄関口として機能させていくため、事業承継や新たな担い手を確保する取り組みをしていく必要があります。

産業経済部長

これまでも天龍峡再生に関係する皆さんにご尽力いただいておりますが、天龍峡100年再生を成し遂げていくためには「担い手」は大変重要になってきます。現在2つの取り組みを検討しています。そのひとつとして、千代、龍江、川路地区それぞれの若い担い手の皆さんによるネットワークを市が中心となって構築し、天龍峡を取り巻く地域を面的に捉えて天龍峡再生に向けた検討を進めていこうと、すでに取り組んでいただいている方の思いとこれから取り組んでいこうとしている方の思いをつなげられるような組織を作りつつあります。また、経済効果が上がる天龍峡の観光振興を図るなかで、DMOなどといった専門的な知見を取り入れながら人材育成に努めてまいります。

南信州新聞社・信濃毎日新聞社

「若い担い手」や「組織」について教えてください。

産業経済部長

千代地区はNPO法人里山ベースに携わる方、龍江地区は農村起業家育成スクールを基に活動されている方、川路地区は天龍峡駅周辺で開業された方などといった皆さんによる集合体で活動の推進力を得られるようネットワークを構築してまいります。竜東・竜西を面的に捉え、専門的な知見を交えながら、担い手の皆さん各々の思いをつなげ、天龍峡再生に向けた方策を検討していきたいと思っております。

飯田市長

龍江地区のりんご農園から川路地区のエコバレーー帯に加えて、今回天龍峡の南側、特に千代地区が大橋でつながりましたので、様々な方が集まれると思っております。

南信州新聞社

プロジェクトとして取り組みますか。また、どのようなスケジュールで取り組みますか。

産業経済部長

プロジェクトとして取り組む予定です。パーキングエリアの活用方法など喫緊の課題を含んでいますので、年度内には組織体制などを形にして、来春を目途に様々な方向性が明らかになるよう進めてまいります。

信濃毎日新聞社

市が主導して展開しますか。

飯田市長・産業経済部長

市はサポートする立場です。クモの糸のように皆さんをつないでいきます。

○リニア本線トンネル掘削工事に伴う発生土について

朝日新聞

発生土で谷を埋めるなどした場合、土砂災害の被害を拡大する可能性があり、発生土を受け入れる地域から承諾を得ることが難しい場合もあるかと思われませんが、どのように対応していきますか。

飯田市長

飯田下伊那は風水害に苦しんできた地域ですので、発生土置場となる地域のみならず下流域の皆さんも含めて理解を得ながら進めることが重要です。まずは、事業主体の JR 東海から当該地域の皆さんに「JR 東海が責任を持って対応する」ということを伝えながら丁寧な説明をしていただく必要があります。そのうえで、市は、事業の進展に向けて環境整備を進めていきます。現時点では、例えば、発生土の運搬に伴う道路整備や通行に際して、当該道路周辺の住民の皆さんに負担がかからないよう JR 東海と調整しています。今後も住民の皆さんに負担がかからない発生土の受け入れを考えていきます。

朝日新聞

近頃の災害教訓から「絶対安全」と言い切れることができず、難しい課題だと思いますが。

飯田市長

発生土は、リニア関連工事に限らず、いかなる開発工事においても発生するものです。発生量によっては一カ所で対応することが難しい場合があります、また地域ごと様々な事情がありますので、その都度、置場となる地域の皆さんの理解を得ながら進める必要があります。そして、置場となって影響を受けた地域に対しては、自治体や事業主体が責任を持って注視していく必要があります。

○2019年（平成31年、令和元年）3大ニュースについて

信濃毎日新聞社

今年の3大ニュースをお聞かせください。

飯田市長

エス・バードの開所、天龍峡大橋を含めた三遠南信自動車道天龍峡 IC・千代 IC・龍江 IC 間の開通、全 20 地区で基本構想が策定されたことです。政府が地方創生の第 2 期として策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（案）において、今後は地域運営にスポットが当たってきますので、地区ごとに基本構想を策定している飯田市の取り組みはモデル的なものとして注目されると期待しています。

5 閉会

この内容については、言葉遣いや言い回しなどを整理したうえで作成しています。

（作成：秘書広報課広報広聴係）